

はじめに



東京都は、「東京都平和の日条例」で、3月10日を「東京都平和の日」と定め、平和の意義を確認するとともに、平和意識の高揚を図るため、記念行事を実施しております。

平成27年度は、3月10日、東京都庁において「第26回東京都平和の日記念式典」を開催いたしました。

記念式典の冒頭に東京大空襲をはじめ戦災で亡くなられた方々を追悼し、世界平和の恒久を願って黙とうを行い、厳粛な雰囲気の中で式典が執り行われました。

式典に引き続き、東京都交響楽団による記念公演を行い、「追悼と平和への祈り」の気持ちを新たにしました。

また、記念行事の一環として、東京芸術劇場、日野市平山季重ふれあい館及び多摩市役所において、「東京空襲資料展」を開催いたしました。

本報告書は、今回の東京都平和の日記念行事についてまとめたものであり、平和の大切さを確認していただくための一助となれば幸いです。

おわりに、東京都平和の日記念行事の実施にあたり、ご協力をいただいた皆様に心から御礼を申し上げます。


平成28年3月

東京都




目次

はじめに	1
第一章／記念式典	3
概要	4
主催者挨拶	6
東京都知事 舛添 要一	6
東京都議会議長 川井 しげお	7
来賓挨拶	8
東京空襲被災者代表 三村 榮一	8
在日外交団代表	9
駐日ニカラグア共和国特命全権大使 サウル・アラナ・カステジョン閣下	9
式典風景	11
記念公演	13
第二章／普及啓発	17
告知	18
第三章／関連事業	21
東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑	22
「東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑」花壇デザイン画募集	23
東京空襲資料展	29
東京空襲資料展 チラシ	31
東京空襲資料展 展示品一覧	33
東京空襲写真パネル展示	37
第四章／資料	39
アンケート用紙	40
アンケート集計結果	41
区市町村平和関連担当	47
記念行事概要	48
英語プログラム (Memorial Ceremony Program)	49
東京都平和の日条例	50



第一章
記念式典





概要

第26回東京都平和の日記念式典

日時	平成28年3月10日(木) 午後1時～午後3時	
場所	東京都庁第一本庁舎 5階 大会議場	
プログラム	正午	開場・受付
	午後1時00分	記念式典
	午後1時30分	休憩
	午後1時45分	記念公演

式次第

* 黙とう

* 国歌斉唱

* 主催者挨拶

東京都知事
東京都議会議長

舛添 要一
川井 しげお

* 来賓挨拶

在日外交団代表
東京空襲被災者代表

駐日ニカラグア共和国特命全権大使
サウル・アラナ・カステジョン閣下
三村 榮一



会場全景



黙とう

主催者挨拶



東京都知事

舛添 要一

本日ここに、御遺族の皆様、都民の皆様並びに在日外交団を始めとする御来賓の皆様をお迎え致しまして、「第26回東京都平和の日記念式典」を執り行うに当たり、御挨拶を申し上げます。

東京都では、今日、3月10日を「東京都平和の日」と定め、平和の意義を確認し、戦争の惨禍を再び繰り返さないことを誓い、毎年、この式典を始め、平和関連事業を実施しております。

先の大戦で、東京は、度重なる空襲による甚大な被害を受け、多くの都民が犠牲になりました。

特に、昭和20年3月10日、いわゆる東京大空襲により、首都東京は一夜にして見渡す限りの焼野原となりました。尊い命を落とされました方々は10万人にも及び、多くの都民が愛する者と引き裂かれました。

犠牲になられた方々の御無念と御遺族の深い悲しみに思いを致しますと、改めて、戦争の残酷さ、悲惨さを考えずにはおれません。

今日の平和と繁栄が多くの都民の尊い犠牲の上に築かれていることを心に刻み、東京都民を代表して、尊い命を奪われた御霊に謹んで哀悼の誠を捧げ、御遺族の皆様にご心から追悼の意を表します。

戦後71年という年月が経ち、今では、戦後生まれが社会の大半を占めるようになりました。戦争の悲惨な記憶も風化しつつありますが、私たちは、この痛ましい史実を、確実に次の世代へと語り継いでいかなければなりません。これは、今を生きる私たちの、大切な使命であると思います。

都立横網町公園内に建ちます「東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑」は、その史実を受け継ぐためのものであります。

この祈念碑は、生命を象徴する花々で覆われ、内部には、犠牲となられた方々のお名前を記しました「東京空襲犠牲者名簿」が納められています。本年は、359名の方々を新たに追加し、80,683名のお名前が、名簿に登載されております。

世界では、いまだに地域紛争が繰り返され、飢餓や貧困に苦しんでいる人々が大勢いらっしゃいます。人々が寛容の精神を失い、さらなる憎悪と排斥を生み出す悪循環に陥っていると思います。そして、テロによって、何の罪もない多くの人々が尊い命を失っております。このような卑劣な行為は、断じて許されるものではありません。東京都は、その立場を鮮明にしております。

4年後の2020年には、平和の祭典でありますオリンピック・パラリンピック競技大会がこの東京で開催されます。

東京都は、平和国家日本の首都として、世界の都市と連携し、国民同士の相互理解を深め、世界平和に貢献していかなければなりません。

私は、これを肝に銘じ、東京都知事の任に当たってまいります。今日の平和を次世代に引き継いでいく責務を果たすことを、固くお誓い申し上げます。

結びになりますが、犠牲となられた方々の御冥福と御遺族の皆様のご御健勝、御多幸を心からお祈り申し上げ、挨拶と致します。

主催者挨拶



東京都議会議長
川井 しげお

本日ここに、ご遺族をはじめ、平和を願う都民の皆様とともに、第26回「東京都 平和の日」記念式典を執り行うに当たり、東京都議会を代表いたしまして、ご挨拶を申し上げます。

先の大戦が終わり、早や71年の歳月が過ぎ去ろうとしております。

国の内外において、多くのかけがえのない命が失われましたことは、永遠に忘れることのできない深い悲しみであります。

東京は、昭和17年4月18日以来、度重なる空襲を受け、昭和20年3月10日の東京大空襲では、下町を中心とした地域が一夜にして焦土と化し、多くの都民が犠牲になりました。

ご遺族の方々のご心中を拝察する時、万感胸に迫るものでございます。

今日、私たちが享受する平和と繁栄は、こうした重く尊い犠牲の上に築かれてきたものであります。私たちは改めて、過去における戦争の悲惨さを心に刻み、この記憶を風化させることなく、次世代に語り継ぐとともに、強い意思を持って平和な社会の実現へ、新たな一步を踏み出さなければなりません。

さて、4年後には、世界的なスポーツの祭典である、オリンピック・パラリンピック競技大会が、この東京で開催されます。

多くの国や地域に住む方々が、国境、人種や宗教の壁を越えてスポーツとの力を通じ、未来を担う日本の子どもたち、世界の子どもたちに夢と希望を与え、ひいては世界平和の礎となるものでございます。

都議会といたしましても、大会成功に向け、持てる力を十二分に発揮し、全力を尽くしてまいります。

そして、すべての都民が安心し、真に豊かな生活を送ることのできる平和な社会を構築することが、犠牲となられた方々に対する私たちの責務であることを深く胸に刻み、より一層の努力を傾注してまいり所存でございます。

結びに、戦災で犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、ご列席の皆様方のご健勝・ご多幸を心から祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

来賓挨拶



東京空襲被災者代表

三村 榮一

ご紹介いただきました昭和7年、神田区鍛冶町、現在の千代田区鍛冶町生まれの三村榮一です。両親と弟と2人の妹の6人家族でした。

私は暁星小学校の6年生で、学童疎開には行っておりません。ミッションスクールなので、お寺との関係がなかったのです。ほとんどの方がお寺への集団疎開で、弟は国民学校へ行っていたので、疎開していました。

昭和20年2月25日、弟は、今川国民学校の4年生で、私より2つ下ですが、埼玉県の菖蒲町に学童疎開していました。父はその学童達が食糧不足の為、農業会、現在の農協に交渉に行っていて留守でした。

その日は日曜日で雪が30cm程降りました。前年の大晦日に、同じ神田末広町が空襲を受けて、「お正月が来るのに気の毒だな」と言っていたのですが、いきなり昼間2時頃、神田鍛冶町も日本橋に向かって、中央通りの左側が焼夷弾攻撃を受けました。

家には2発落ちました。2階に積んであったふとんに窓から飛び込んだ弾が当たりましたが、あまり衝撃がなく、弾も飛び散らなかったので、慌ててそれをつかんで表へ放り出しました。少々火傷しましたが、たいしたことはありませんでした。

外にでると、向側の家が火を吹いておりました。後ろからも前からも火が迫っており、前は道路が12mくらいあったので、直接火をかぶることはないのですが、後ろからきた火は家と家がくっついているので、これはもう駄目だと思いました。父も不在だったため、我が家の消火をあきらめ、寛永寺のそばにいた母の弟の家に避難する事になっていたもので、雪道を歩いて行きました。

翌日、埼玉から戻って来た父は、自宅の焼け跡を見て、かなりショックを受けた様です。

神田鍛冶町の我家の周りは、貸家が多かったので、父は警報が出る度に、そこをぐるりと見回っていました。そして寝ようとする、第二波の警報がくるので、また見回りに出かけ、恐らく、あまり寝ていなかったのではないかと思います。また食料でも、子供達には食べさせてくれましたが、父はたいしたものは食べていなかったと思います。私達は自宅が焼けてから、上野桜木町の叔父の家に世話になりました。

叔父の家の後ろが上野寛永寺の墓地でちょうど三角地帯になっていて、3月10日の空襲で、3軒だけ焼け残りました。焼け残ったというか焼け残したのです。それは今のJRの線路、海治いから上がってきたところの右側が焼けてきて、4mくらい近くまで火がきましたが、板塀があり、それを向こう側へ倒しました。そうすると火の粉はかぶらずに、火はまた向こうの方へ戻ります。これは、「くさなぎの剣」※というのを知っていたので、やってみたら本当にそうになりました。それと水があったこと。池がありましたし、ドラム缶で10本位の水を用意してありましたから、それをバケツリレーで消していきました。この家が焼ければ住む所がないので必死になって消しました。防空頭巾をかぶっていましたが、バケツの水をかぶっても10分もすればカラカラになってしまいます。それ位火に近づかないと消火できません。水をかけて消すのではなくて、ぶつけて圧力で消します。墓地にも焼夷弾は落ちていましたが、燃えるものがないので、石塔が少し傷ついているとか、突き刺さったまま不発になっているのは結構ありました。そういうものがなかったら、今ここにいられたかどうかわかりません。

日本橋人形町の知人から布団をもらえることになり、リヤカーを引いて行きました。中央区の十思学校の横に公園があり、そこにトラックが止まって、真黒な丸たん棒をおろしていました。よく見ると丸たん棒ではなく、みんな真つ黒に焼けた人でした。恐らく、本所、深川あたりで亡くなった方たちを運んできたのではないのでしょうか。それを見て、本当に焼けた方にはお気の毒ですが、我々は家は焼けたけれど生き残って幸せだったと思いました。

家に戻ると親戚が多く焼け出されており、私以外の家族は弟のいる埼玉県の方に疎開しました。

疎開して2日後に父が過労で亡くなりました。私だけが叔父の家にて中学校へ通っていました。当時は、国民学校が六年で義務教育が終わりますが、私は私立小学校に入っていたので、エスカレーター式に中学校に入れました。軍事訓練も3カ月やりました。20年の4、5、6月。まず軍人勅諭という難しいものを覚えなければいけない。あとは整列です。どこに向かってどうしろといわれてもなかなか覚えきれず、とても大変だったことを覚えています。

最後に、戦争のない平穏な日々が続くことを祈念いたしまして結びとします。

※「くさなぎの剣」三種の神器の1つで、草を薙ぎ払って火の難を逃れたといわれている。

来賓挨拶



在日外交団代表
駐日ニカラグア共和国特命全権大使
サウル・アラナ・カステジョン閣下

舛添要一 東京都知事、
川井しげお 東京都議会議員、
三村榮一 東京空襲犠牲者遺族会代表、
ご列席の大使各位、ご来賓の皆様、会場の皆様。

第26回東京都平和の日記念式典という厳粛な式典に外交団代表として参加させていただきまして、御礼を申し上げます。

今日のこの日は、後に東京大空襲として知られることになり一連の空襲の一環として、ミーティングハウス作戦という名前の作戦がとられた、日本の歴史の中での暗黒の時代の71年目にあたります。

記録によりますと、昭和20年3月9日の夜半、17万トンもの焼夷弾が東京に落とされ、控えめに見積もって、一夜にして、この空襲は10万人の無垢の民を殺し、100万人の人たちが家を焼かれ、41平方キロの面積、ほぼ東京都の4分の1の面積に当たりますが、それが焦土と化したのであります。

戦争とは不公平なものです。それは恐ろしい破壊を引き起こし、年齢、人種、社会的地位やイデオロギーに関係なく、被災者の命を奪っていきます。

東京はこの日、犠牲になった広島・長崎と同じやり方で恐怖に打ちのめされたのであります。

実はこの式典に来る前に、我が国の大統領と話をしました。大統領からは、ぜひご遺族の皆様には心からの哀悼の念を捧げるようにと、申し付かって参りました。私は戦争のこの恐ろしい出来事によって被害を受けたご家族に深く哀悼の意を表します。

世界は犠牲となった方々のことを、必ずや尊敬の念と連帯感を持って思い起こします。

この事実を皆さんにぜひ知っていただきたいと思います。亡くなられた方を悼み、わたくしはニカラグアの大統領に代わって平和と国際理解を希求すべきであると、この場をお借りいたしまして申し上げたいと思います。

平和は人類の存続のためには必要なものです。また、平和は人間の命と同じく、大変大切なものです。

しかし、平和はもろいものでもあります。今日の世界では、政治的、宗教的、また文化的な違いがあるがゆえに、人と国が分断され、国際平和がおびやかされています。

まさに今、この時にこそ、忍び寄る戦争という軍靴の響きを静め、今まさに癒えかけている傷口が二度開く事のないように真剣な決意をしなければなりません。

私たち世界の国々は、平和的な手段で紛争を解決すべき重要な仕組みを作り上げて参りました。

すなわち国連です。国連は東京大空襲という悲劇を受けて戦争直後に作られた組織ですが、国連はまさに国際的な対話と交渉を通して、国際的安全保障を確保するために作られた理想的な紛争解決の手段なのです。

もし私たちが、本能の赴くままに行動し、一方的な措置をとれば、益々安定と永続的な解決は遠のいていってしまいます。それは却って状況を悪化させ、平和と世界の安全保障を脅かします。ぜひ国際法を遵守いたしましょう。

東京大空襲にあわれた方に敬意を払い、平和の文化が築かれるということ、わたくしは胸に誓いたいと思います。

わたしたちの未来のために、国連が勧めている価値と態度を私たちが子供たちに根付かせられるよう、努力をしましょう。すなわち、あらゆる命を大切に、暴力を拒絶し、他者と分かち合い、耳を傾け理解し、この地球を守り、連帯感を再確認しましょうということでもあります。長く続く平和という道を共に歩んでいきましょう。ご清聴に感謝します。



來賓挨拶

Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of the Republic of Nicaragua
H. E. Mr. Saul ARANA Castellon

His Excellency, Mr. Yoichi Masuzoe, Governor of Tokyo
Honourable Shigeo Kawai, President of the Metropolitan Assembly of Tokyo
Mr. Eiichi Mimura, Representative of the victims of the bombing of Tokyo
Excellencies, Distinguish Guest
Ladies and Gentleman

Thank you for honouring me with the representation of the Diplomatic Corp in this solemn event that represent the 26 Tokyo Metropolitan Peace day Memorial Ceremony.

This evening marks the 71 anniversary of a dark moment in the Japan history, the Operation Meetinghouse as part of a series of firebombing also known as the bombing of Tokyo.

According to the records, on the night of March 9 of 1945, one hundred seventy thousand tons of napalm bombs were dropped over the city.

It has been conservatively estimated that, in only one night, the fires killed more than 100,000 innocent people, left one million homeless and destroyed around 41 square kilometers, almost 1/4 of the city.

War is unfair. It causes terrible destructions and takes the lives of their victims with no consideration to age, race, social status or ideology. Tokyo was terrified that day in the same way that Hiroshima and Nagasaki, also two martyr cities.

On behalf of the President of Nicaragua, Daniel Ortega Saavedra, I would like to express his deep condolences to the families affected by this terrible act of war.

You should know that the world recalls with respect and solidarity the sacrifice of the victims.

In memory of those who were killed, I take on behalf of president of Nicaragua this opportunity to reiterate a call for peace and international understanding.

Peace is a necessity to preserve humankind. Peace is as precious as human life.

Yet, peace is very fragile. In today's world we are witnesses how political, religious and cultural differences separate people and nations and threat international peace.

It is in this very moment that we need a serious commitment to silence the drums of war, and do not opening the wounds that were about to heal.

We, the nations of the world, have developed important mechanisms to resolve our conflicts by peaceful means.

The United Nations, created immediately after tragic events as the bombing of Tokyo, was precisely founded to assure international security by making international dialogue and negotiation the ideal instrument to solve our difference.

Let us not to be wretched by our own instinct as a way to imposed unilaterally actions that far from provide stability and lasting solutions, will aggravate the situation, threatening peace and security at global level. !!!!! Let's abide by the rule of international law!!!!!!

Let's pay tribute to the memory of the Tokyo bombing victims by taking a strong commitment and determination to build a culture of peace.

For our future, let's commit to develop on us and on our children the values and attitudes promoted by United Nations: respect all life, reject violence, share with others, listen to understand, preserve the planet and rediscover solidarity. Long live the peace let the peace be the road, so we can work and walk all together.

Thank you.

式典風景



受付風景



受付風景



会場風景



東京都知事挨拶

式典風景



東京都議会議長挨拶



在日外交団代表挨拶



東京空襲被災者代表挨拶



会場風景



会場風景



「追悼と平和への祈り」 ～東京都交響楽団メンバーによるアンサンブル～

日時 平成28年3月10日(木) 午後1時45分～午後3時
場所 東京都庁第一本庁舎 5階 大会議場
演奏 東京都交響楽団

公益財団法人 東京都交響楽団プロフィール

東京オリンピックの記念文化事業として1965年東京都が設立(略称:都響)。その後2011年より公益財団法人となる。

歴代音楽監督は森正、渡邊暁雄、若杉弘、ガリー・ベルティエニ。現在、大野和士が音楽監督、小泉和裕が終身名誉指揮者、エリアフ・インバルが桂冠指揮者、ヤクブ・フルシャが首席客演指揮者を務める。

定期演奏会などを中心に、小中学生への音楽鑑賞教室(約60回/年)、青少年への音楽普及プログラム、多摩・島しょ地域での訪問演奏、ハンディキャップを持つ方のための「ふれあいコンサート」や福祉施設での出張演奏など、多彩な活動を展開。《首都東京の音楽大使》として、これまで欧米やアジアで公演を成功させ、国際的な評価を得ている。2015年11月にはベルリン・ウィーンなど5ヶ国6都市をめぐるヨーロッパツアー(指揮:音楽監督・大野和士)を行い、各地で熱烈な喝采を浴びた。

受賞歴に、「京都音楽賞大賞」(第6回)、インバル指揮「ショスタコーヴィチ:交響曲第4番」でレコード・アカデミー賞〈交響曲部門〉(第50回)、「インバル=都響 新・マーラー・ツィクルス」での〈特別部門:特別賞〉(第53回)など。

公式ウェブサイト <http://www.tmsso.or.jp/>

2016年2月現在

記念公演

プログラム

～戦争犠牲者のための追悼として～

- ◆ J. S. バッハ : 管弦楽組曲第3番 BWV.1068 より「アリア」
- ◆ シューベルト : アヴェ・マリア
- ◆ ドヴォルザーク : 弦楽セレナード ホ長調 作品22より第1, 2, 5 楽章

～子供達とのジョイント～

- ◆ モーツァルト : アイネ・クライネ・ナハトムジーク ト長調 K.525 第1 楽章
- ◆ アイルランド民謡 : ロンドンデリーの歌
- ◆ 中島みゆき : NHK 連続テレビ小説「マッサン」主題歌『麦の唄』
- ◆ 北原白秋 作詞、山田耕筰 作曲 : 『からたちの花』

～みんなで歌うコーナー～

- ◆ 高野辰之 作詞、岡野貞一 作曲 : 『ふるさと』
- ◆ 江間章子 作詞、團伊玖磨 作曲 : 『花の街』





出演者

ソプラノ：松岡 多恵 (二期会会員)

1st. ヴァイオリン：渡邊 ゆづき
吉岡 麻貴子
田口 美里
及川 博史
横山 和加子
田中 雅子

2nd. ヴァイオリン：双紙 正哉
山本 翔平
大和 加奈
沼田 雅行
山口 直美

ヴィオラ：小林 明子
南山 華央倫
林 康夫
樋口 雅世

チェロ：田中 雅弘
平田 昌平
高橋 純子

コントラバス：渡邊 章成
本山 耀佑

ジョイント参加者：小田桐 陽音 (小学3年生)
内田 雄太 (高校2年生)
松井 杏珠 (小学5年生)

